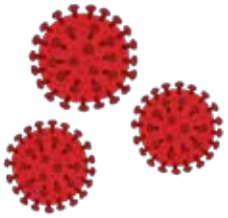
つばさ TSUBASA

令和２年度 生涯学習課だより

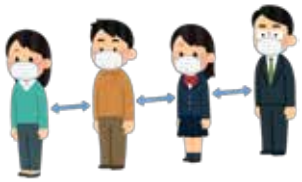
第339号(７月)

新型コロナウイルス対策に終わりなし？



２月から新型コロナウイルス対策で、世の中はいや応なく大きく変わらざるを得ない状況になりました。過去に大流行した疫病は、その感染規模に応じて社会に大きな影響を与えてきましたが、今回の新型コロナウイルスも歴史上の分岐点だったといわれるようになるかもしれません。

とはいえ、日本国内においては当初の懸念に比べると、死者・重傷者は出ているものの、思ったよりはるかに抑え込めているといえそうです。しかし、世界の他の地域では感染の拡大や死者・重症患者の発生は続いておりますし、国内でも東京などの大都市圏では相変わらず感染者が出ています。人・物の往来が頻繁で不可欠な今の世では、依然として注意が必要なのは変わりません。



1918年に流行したスペイン風邪も、３月に流行り始めた第１波よりも８～９月頃の第２波に強毒化したウイルスで死亡率が跳ね上がりました。そのため、今回もこの第２波が危険視されていますが、1918年というと第１次世界大戦末期で、各国が疲弊しきった最中の出来事です。その頃に比べると現在は医療技術や衛生環境が向上していますので、そこまでひどいことにはならないかもしれませんし、すでにもう第２波は起きているという説もあります。

いずれにせよ、いまだ不明な点の多い感染症です。完全に終息するまでは我慢が必要となります。

したいこと・行きたいところ、たぶんたくさんあるでしょうが、慎重に用心しながら少しずつ活動を広げていくしかありません。猛暑になりそうで暑苦しくうっとうしいですがマスクを着用し大声をあげず、三密をせずこまめに換気を行い、手洗いを入念に行うのはもちろんのこと、秋から冬にかけての感染症流行期に備えて、今から感染症予防品の備蓄を買い占めるのではなくゆっくりとそろえておくこともしておきたいものです。

この流行終結が早くなるのか遅くなるのかは、政府や自治体の的確な指示や判断が必要ですが、一人一人ができることから取り組むことも大きな効果があるのではないでしょうか。なんとなく成功してしまっている日本の感染対策と評されるのを見ると、日常からの衛生教育の大事さを感じざるを得ません。

緊張感を過度に緩めることなく、あともうひと踏ん張り頑張りましょう。

７月１７日は「北海道みんなの日」

◎1869年(明治２年)、北海道の名付け親とされる松浦武四郎が、明治政府に「北加伊道」という名称を提案した７月17日は、「北海道みんなの日」、愛称「道みんの日」です。

◎「道みんの日」は、北海道のこれまでの歴史や文化、風土を見つめ直し、これから北海道を考える日として、平成29年に制定されました。

◎この日をきっかけに、道民の皆さんには、北海道に愛着や誇りを持っていただき、道外から訪れる方に、本道にゆかりのある方に、北海道の魅力を発信する機会としていただければ幸いです。